

第2学年 国語科学習指導案

日 時 令和3年9月3日(金)
子ども 2年

I 単元名

そうぞうしたことを、音読げきであらわそう
中心学習材「お手紙」(光村図書2年上)
補助学習材「がまくんとかえるくん」シリーズ

<授業の見どころ>

行動の理由を明らかにする活動を通して、既習の場面と結び付けて考え、登場人物の気持ちを具体的に想像していきます。

II 単元の指導構想

1 単元について

- 子どもたちは、進んで読書活動に取り組み、物語のお気に入りの場面の様子や登場人物の行動を友達や教師に伝えるなど、叙述から想像して読むことを楽しむ姿が見られる。
これまでの学習において、動作を加えた音読や、登場人物の気持ちを吹き出しに書くなど、場面の様子に着目して想像を広げながら読む学習を行っている。しかし、なぜそのように読むか考えた理由を聞くと、考えていることが叙述と結び付いておらず、生活経験をもとにした想像のみが広がっている子どもも見られる。今後は、どの場面のどのような様子と結び付けたのか明らかにした上で、叙述をもとにしながら登場人物の行動を具体的に想像する力を高めていく必要がある。
- 本単元では、かえるくんとかまくんの場面の様子に着目し、二人の気持ちや行動の理由を具体的に想像することをねらいとしている。

中心学習材「お手紙」は、主な登場人物のがまがえるくんとかえるくんの二人が、お手紙を通してお互いのことを大切に思い合っていることを確かめるという心温まる作品である。お手紙が誰からも来ないことで悲しんでいるがまがえるくんや、自分もお手紙を出していなかったことに気付いたかえるくんの二人が悲しい気分で玄関に座っている場面から展開し始める。終末場面には、かえるくんが出した手紙の内容について感動し、改めて素敵な友達がいたことを認識したがまがえるくんと、友達が感動して喜んでる姿を見て喜ぶかえるくんへと様子が変わっている。このように、二人の気持ちが物語を通して大きく変化していると捉えられる。また、文章と場面ごとの挿絵を照らし合わせて読み進めることで、登場人物の様子や気持ちをわかりやすく読み取ることができる。そのため、場面の様子や登場人物の行動を中心に、登場人物がなぜその行動をしたのかについて、叙述をもとに想像を広げながら読むことができる教材であると言える。

設定した言語活動は、音読劇を行うことである。音読劇の台本には、登場人物の名前、場面の様子や行動に合う読み方や動きを書くようにする。音読劇で物語を表現することは、登場人物の行動を具体的に想像する上でかかわりがあり、付けたい力と照らし合わせて、適切な活動と言える。具体的には、第1次で場面の様子や登場人物の気持ちに合わない読み方や動作で表現した言語活動モデルを提示し、登場人物の行動や会話、気持ちを読み取り、表現する必要があることを押さえていく。第2次では、場面の様子や登場人物の気持ちに合う読み方や動作を考えたり表現したりする場を設定する。自分の声を自分で聞きながら音読することを通して、内容の理解や登場人物の気持ちについて想像を広げて読むことに繋げていきたい。また、なぜそのように読むのかを、これまで捉えてきた場面の様子や登場人物の行動を基にして、説明できるようにしていく。

- 指導にあたっては、以下の二点に留意する。

一点目は、**問題意識が質的に高まる単元構想【手立て】**についてである。子どもたちは、中心学習材と出合ったとき、「いつ・どこで・誰が・どのように」など物語にどんな出来事が起きるのか捉えて読もうという意識をもっていきと考える。この意識を生かしながら学習を進めていく中で、物語の感想を伝えたり出来事を整理したりする学習活動を行いながら、「二人はお互いのことをどう思っているのか、二人がなんでそういうことをしたのか知りたい。」という問題意識をもたせるようにする。そして、場面の様子や登場人物の表情、会話、行動の理由などを想像していくことで、物語の世界が豊かに想像され、「なんでそうしたのか文をもとに考えたことで、二人がお互いを思い合っていることが分かった。なぜそうしたのかを考えながら物語を読んでいくと気持ちを想像することができる。」という問題意識の高まりに繋げていきたい。

全校研究とのかかわり「えらぶ」「つなぐ」「つかう」

二点目は、**言葉への自覚を促す学習活動【手立て】**を展開することについてである。具体的には、二人とも悲しい気分で玄関の前に腰を下ろしている理由について、場面の様子や「手紙」の意味、「だれも」の叙述から具体的に想像できるようにする。この悲しい気分になっている理由を押さえることで、なぜお手紙の内容を知った時に二人とも幸せな気持ちになったのか捉えることができるようにする。

全校研究とのかかわり「えらぶ」「つなぐ」

2 学びの文脈に基づいた単元構想図

単元の目標

- 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。 [知識及び技能] (1) ク
- 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。 [思考力, 判断力, 表現力等] (1) イ
- ◎ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。 [思考力, 判断力, 表現力等] (1) エ
- 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで音読し、思いや考えを伝え合おうとする。 [学びに向かう力, 人間性等]

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。	① 「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。 ② 「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。	① 進んで、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習の見通しをもって音読したり、演じたりしようとしている。

復興教育との関連

- いきる「③価値ある自分」
かえるくんの行動の根底にある友だちを大切に思う心に触れることを通して、どのような状況においても、自分自身を大切に思ってくれる人がいることや、周りの人に必要にされていることに気付くことができる。
- かかわる「⑨仲間とのつながり」
「お手紙」や「二人は〇〇」シリーズを読み、仲間や周りの人のありがたさや互いに支え合って生活することの大切さに気付くことができるようにする。

他教科・領域等

- 【道徳】 8月 「みんなのニュースかかり」
過ちを認め、自分がよいと思うことを進んで行おうとする判断力を育てる。
- 学年集会 11月 『ひろげよう あたたかい心』
学年の生活向上についての課題に気付き、解決に向けて話し合ったり、みんなで決めたことを実践したりする。

資質能力の高まり

教科の学習内容

2年4月
「ふきのとう」
人物の言動や出来事を捉える。

1年9月
「くじらぐも」
人物の言動を思い浮かべながら読む。

2年6月
「スイミー」
人物の行動や場面の様子を具体的に想像する。

本単元 2年9月
そうぞうしたことを音読げきであらわそう
中心学習材：「お手紙」
言語活動：物語を読んで、音読劇をする。
補助学習材：アーノルド＝ローベル作「がまくんとかえるくん」シリーズ

2年12月
「わたしはおねえさん」
人物と自分を比べながら読み、感想をもつ。

2年2月
「スーホの白い馬」
感想を交流し、感じ方の違いを知る。

3年4月
「きつきの商売」
人物の行動や気持ちについて叙述を基に捉える。

他教科・領域等

- 道徳 6月 「雨上がり」
「このままじゃいやだな。」と感じたり、「よしやろう」自分で決めたりすることの大切さが分かり、よいと思うことを自分から進んでやろうとする心情を育てる。
- 学年集会 6月 「つたえよう おもいやりのことば」
学年集会を通して友だちとのかかわり方についての課題に気付き、課題の解決に向けてみんなでのような取り組みをしていきたいか話合う。

見方・考え方を働かせるポイント

- 二人の表情・口調・様子を表す叙述に着目し、具体的に想像することができるようにする。
- 二人とも悲しい気分になっている様子を表す叙述に着目し、二人が幸せな気持ちで座っている理由について、想像することができるようにする。

願い

- ・「お手紙」の物語を音読劇で表現して楽しみたい。
- ・なぜ、がまくんは、内容が分かっている手紙をもらって喜んだのか知りたい。

教科の力

- 誰が何をしたのか、どのようなことを言ったのかなど、登場人物の会話や行動を基に内容の大体を捉えている子どもが多い。
- 登場人物がなぜそのような行動をしたのかについて考えながら読むことに難しさを感じている子どももいる。
- 想像したことが叙述と結び付いておらず、生活経験のみをもとにした考えを発表する子どももいる。

子どもの実態

3 単元の指導及び評価の計画（全12時間）

次	時	○学習活動 働かせる見方・考え方	◆研究の手立て (重点的に働かせる資質・能力)	◇評価規準 <評価方法>
1	1	○「お手紙」の範読を聞き、初発の感想を書く。 ○教師作成の音読劇モデルを提示する。 「お手紙」の音読劇をしよう。	【手立て 問題意識の質の高まり】 ◆場面の様子に合っていない音読モデルを提示し、よりよい音読劇をするには登場人物の行動や会話、気持ちについて読み取るとよいことを確かめる。 ◆これまでの物語の学習について振り返り、単元の学習課題解決に向けて生かせる読み方を決める。 【つなぐ】【えらぶ】【つかう】	
	2	○学習の見通しをもち、学習計画を立てる。	「いつ・どこで・誰が・どのように」を探して読むとよさそうだね。	
2	3	○場面や登場人物の行動を確かめる。 場面の様子(時, 場所) 登場人物の会話や行動	【手立て 問題意識の質の高まり】 ◆物語の設定や場面を捉えながら、内容が分かっている手紙を四日間も待っていた叙述を確かめ、なぜふたりとも手紙を待っていたのか考えていくことを確かめる。【つなぐ】【えらぶ】 (創造的・理論的思考)	【思考・判断・表現①】 <発言・ノート> 場面の様子やがまくんとかえるくんの行動や会話を中心に、物語の大体を捉えているか確認する。
	4	お手紙の内容が分かっているのに、なぜ二人は待っていたのかな。	二人はお互いのことをどう思っているのかな。なんでそういうことをしたのか知りたいな。	
2	5	○二人が悲しい気分で玄関の前に腰を下ろしている理由を考える。 登場人物の行動や会話, 挿絵	【手立て 言葉への自覚を高める学習活動】 ◆登場人物の行動を表す言葉や挿絵に着目して、場面の様子や行動の理由について話し合う活動を設定する。 ◆二人とも悲しい気分になっていることを表す叙述に着目して、手紙を内容について知ったがまくんの行動の理由を確かめる。その後、二人が幸せな気持ちで座っている理由を捉えることができるようにする。 【つなぐ】【えらぶ】 (感性・情緒) (他者とのコミュニケーション)	【知識・技能①】 <音読> 語のまとまり、言葉の響きやリズムなどに注意して、明瞭な発音で文章を読んでいるか確認する。
	6	○かえるくんが大急ぎで帰った理由について考える。 登場人物の行動や会話, 文末表現		
	7	○がまくんの家で手紙を待つかえるくんの様子について考える。 登場人物の行動や会話, 挿絵		
	8 本時	○内容が分かっている手紙が来るのを幸せな気持ちで待っていた理由について考える。 登場人物の行動や会話, 手紙の内容		
	9	○四日間手紙が来るのをまっている間、どんなことを話していたのか考える。 登場人物の行動や会話	ふたりともお互いを思い合っているんだね。どんな様子なのか、なぜそうしたのかを文をもとに考えていくと、二人について詳しく想像できたよ。	【思考・判断・表現②】 <発言・ノート> 既習や学習するの場面のがまくんとかえるくんの様子に着目して、二人の気持ちや行動の理由について具体的に想像しているか確認する。
3	10	○読み方や動きなどを考え、音読劇の練習をする。	【手立て 問題意識の質の高まり】 ◆音読の表現の工夫を考えたり、場面の様子や登場人物の行動の理由に合った読み方かどうか確かめたりする活動を位置付ける。 【つなぐ】【えらぶ】【つかう】 (感性・情緒) (他者とのコミュニケーション)	【主体的に学習に取り組む態度①】 <発言・ノート> 考えてきた音読の表現の工夫を生かし、場面の様子に合わせようと音読したり、演じたりしているか確認する。
	11	○グループごとに音読劇を紹介して助言し合い、改善を含めて練習する。		
	12	○音読劇の発表会をする。 ○単元の学習を振り返る。		

Ⅲ 本時の指導

1 目標

- 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。

2 評価規準

【思考・判断・表現】

- ・「だれもぼくにお手紙なんてくれたことがないんだ。」「ああ。」「いいお手紙だ。」と言われたかえるくんや、お手紙に「親友」と書いていることを知ったがまくんの様子に着目して、二人が幸せな気持ちになっている理由について具体的に想像している。

【期待する児童の姿】

- ・ふたりが幸せな気持ちになっているのは、お手紙を書いてくれたことをがまくんが知って、ぼくにはこんなに素敵な友だちがいると気付いたからだと思います。かえるくんは、やっのがまくんが自分がいることに気付いてくれて嬉しくなったのだと思いました。
- ・ふたりが幸せな気持ちになっているのは、お手紙に親友と書いてくれたことをがまくんが知って、かえるくんが友達でそばにいてくれてよかったと嬉しくなったからだと思います。かえるくんは、そんながまくんを見て、嬉しくて幸せな気持ちになったのだと思いました。

<努力を要する状況の児童への手立て>

既習の場面を掲示に位置付け、場面の様子や二人の行動を、文章や挿絵を参考にして考えることができるようにする。

3 展開 (8 / 12時)

段階	学習活動 ○発問	時間	◆研究にかかわる手立て 予想される子どもの反応	・留意点 【評価】
導入	1 前時想起 2 課題の設定 ふたりともしあわせな気持ちで お手紙をまっているのはなぜだろう。	3 2	【問題意識の質の高まり】 ◆前時の学習で疑問に思ったことを想起し、課題意識を醸成させる。	・前時の学習を想起して、全体で疑問に思ったことを確認する。
	3 課題解決の見通し ○なぜがまくんは幸せな気持ちになったのですか。 ・読みのポイントを確認する ○どんなことに注目して読むとよいですか。 4 課題の解決 (1) 学習場面の音読 (2) 一人学び ・お手紙の内容でがまくんがいいなと思ったところを考え、印を付ける。 (3) 読み深め合い ○お手紙の内容でがまくんが一番いいなと思ったのはどこでしょう。 ○がまくんが幸せな気持ちになったのはなぜでしょう。 ○かえるくんが幸せな気持ちになったのはなぜでしょう。 ○がまくんの幸せな気持ちになる前の「ああ。」「とてもいいお手紙だ。」をどのように読みたいですか。 5 まとめ ・二人が幸せな気持ちでお手紙を待っている理由について、根拠を明らかにしながら書く。	2 3 2 2 10	かえるくんがお手紙を書いたと言ったことだ。 ふたりの行動、会話やお手紙の内容だね。 【言葉への自覚を高める学習活動】 ◆二人が悲しい気分になっている様子に着目して、手紙を書いたことを知ったがまくんの行動やかえるくんの気持ちについて話し合う活動を設定する。 ◆自分の考えの根拠となる叙述をあげる際に音読を促すことで、登場人物の行動や気持ちを想像しながら読む一助となるようにする。 (感性・情緒) (他者とのコミュニケーション) ぼくにはこんなに素敵な友だちがいると気付いたから。 がまくんが自分がいることにやっが気付いてくれて嬉しくなったから。 大切な友だちがそばにいたと気づいたから、感動しているように読みたいな。	・「親友」の意味を、子どもたちの経験を踏まえて捉えていく。 ・一の場面の「だれも」に着目して、がまくんがお手紙を欲しかった理由やかえるくんが悲しんでいた理由について想起するように促す。 ・本時で想像したことが読みで生かされていると自覚できるように、板書に立ち返りながら友達の読みのよさを共有していく。 【思考・判断・表現②】 <記述・発言> がまくんやかえるくんの様子に着目して、二人が幸せな気持ちになっている理由について具体的に想像しているか確認する。
終末	6 次時の学習を見通す ・幸せな気持ちで玄関の前に座っている二人が、四日間どんなことを話していたのか考えていく見通しをもつ。	3		・挿絵の二人の表情から四日間どんな話をしていたのか想像させ、次時に学習していきたいという意欲を引き出す。

